

二〇二六年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程（午前）

国語（六〇分 一〇〇点）

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題冊子のすべてのページがそろっていることを確認して、解答を始めなさい。
この問題冊子は1ページから25ページまであります。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
解答用紙は、問題冊子の上を開いたまま裏返して置きなさい。
（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑧の――線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 美しい絵画を見る。
- ② 資金を横領された。
- ③ 長い年月を経る。
- ④ 医師を志す。
- ⑤ 日本のでんとうを守ろう。
- ⑥ 馬をしいくする。
- ⑦ 新しい機械をどうにゆうする。
- ⑧ 落としたものをひろう。

問二 次の①～④のことわざと同じような意味を表すことわざを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 猿も木から落ちる
- ② 猫に小判
- ③ 泣き面に蜂
- ④ ちりも積もれば山となる

ア 馬の耳に念仏
エ 弱り目に祟り目

イ 石橋をたたいて渡る
オ 河童の川流れ

ウ 石の上にも三年

問三 次の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

和子さん「今日は学校前の花壇だんについての話し合いをしたいと思います。学校前の花壇に私たちが去年植えた花がありますが、それが枯かれてしまったので、新しい花を植えたいと思っています。みなさんはどう思いますか。」

歌子さん「私は賛成です。学校前にきれいな花が咲さいていると、登校するときにはさわやかな気持ちになります。」

信子さん「私は反対です。きれいな花は確かにいいのですが、花壇の手入れをするのはとても大変です。」

愛子さん「信子さんの言うとおり、花壇の手入れは大変です。草を抜ぬいたりするときに、歩道で作業するので、歩道がせまくなります。地域の人が通るときに困るのではないかと思います。」

和子さん「私も最初は信子さんや愛子さんのように考えていました。でも、花壇に花があると、そうでないときに比べて、ゴミのポイ捨てが減へっているという話を地域の人から聞きました。」

愛子さん「なぜポイ捨てが減へったのでしょうか。」

歌子さん「きれいな花壇にはポイ捨てしようという気にならないのではないのでしょうか。汚よごれていたら、ゴミを捨ててもいいという気持ちになるのかもしれない。」

信子さん「なるほど。では花壇をきれいにするには地域のためにも大切だということですね。私は反対意見を取り下げます。」

愛子さん「私も反対意見を取り下げます。ただ、ということはお気をつけた方がいいと思います。」

和子さん「そうですね。では愛子さんが言ったことに気をつけて、みんなで花壇の花を植えるということで決き定ていします。」

(1) ー線部の和子さんの発言には、反対者を説得するための工夫くふうがあります。その工夫として適当なものを次の中から二つ
選び、記号で答えなさい。

- ア 反対意見にもいったん理解を示している。
- イ 大事なことをくり返して強調している。
- ウ データを示して反論している。
- エ 自分の体験を話して興味を持たそうとしている。
- オ 第三者の言葉を引用している。

(2) 会話文中の に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 去年よりもきれいな花を植える
- イ ポイ捨てをしないようにする
- ウ 歩道をふさがないようにする
- エ 地域の人たちと協力する

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

地球環境のために、農業は何かができるのか。土壌を維持するだけでなく、再生することで、農業生産を通じて温室効果ガスの削減や生物多様性の確保などを実現しようという動きが見られ始めています。

土地の再生と、そこに生きる土壌微生物やさまざまな生態系の力を活用した農業のあり方を目指す動きには「リジエネラティブ（土壌再生）農業」という名称が付けられるようになっていきます。リジエネラティブ農業には、いくつかの原則がありますが、明確な形はありません。私はこの形のなさこそが重要だと考えています。この農業の一番大切なこととしては、土壌の力を引き出すことを農法のやり方の最優先におくことです。そして、そのためには前提として「自らの農地の現状を正しく認識する」ということが重要です。弱っている土地の原因、状況は様々です。この土地に対して、① 決められた形に従い、型通りの農業を行っていたのでは、土壌の再生はとうてい実現できません。弱っている土地の様々な状況に応じて、一番よいと思われる方法を考えて対応をしていくことが、土壌の再生のためには必要です。そのためには、まず、自らが農業を行う土壌の状態を正しく理解せねばなりません。

みなさんは植物が育つために必要な栄養素として、窒素（N）、リン酸（P）、カリウム（K）が必要だということは聞いたことがあると思います。それらの栄養素は土の中にありますが、収量を上げるためには、肥料としてさらに入れる（施肥する）必要があります。

一方、② 土壌には、様々な微生物や動物がすんでいます。それらは、土の中にある有機物を分解して栄養素にして生きていますが、栄養を取り込んで吸収すると同時に、代謝物として無機物を排出します。人間でいえば、呼吸で酸素を取り込む代わりに、口から二酸化炭素を出すのと同じことです。

土中の微生物や動物は有機物を食べて、無機物を代謝物として排出します。たとえば、土の中に残った植物の死んだ根は土壌動

物（ミミズなど）や微生物によって分解されます。根を構成していた窒素はアンモニウムイオンとなり、リンはリン酸イオンとなり、放出されます。こうした無機物が植物の根から吸収され、植物の栄養となるのです。 A、土壌には有機物が必要だと
と言われていました。

しかし、十九世紀から二十世紀にかけて「③近代農法」が発展するに従い、新しい方法が生まれます。それは、微生物が生み出す物質を人の手で化学的に合成して（いわゆる化学肥料）、それを投入することで植物を育てていく、という方法です。この方法のほうが、植物に必要な栄養分をより効果的に与えることができるので、収量も上がる。効率的に大きな収益を得ることができます。

自然の仕組みを、科学の力によって細かく分析する。そして、人間が合理的に支配することで生産性を上げていく。こうした考え方が近代農法の根本にはあったのです。

同じような考え方は、農業の他の部分においても見られました。 B、気象という不確定な条件に左右されないように、ビニールハウス栽培などの施設園芸によって、生育環境をコントロールすることなども、そうした考え方の表れです。

自然という複雑なものを人間や科学の力でコントロールする。こうして近代農法はめざましい発展を遂げましたが、そのやり方の維持には常に人間の関わりが必要でした。しかし今、その人間の自然への関わりが範囲が広くなりすぎました。その結果、外部から人間の関わりを続けていくことが難しくなっているのです。近代農法の限界がはつきりと形を表したのはこのためです。そうした中で改めて、複雑でよくわからなかった自然の仕組みを複雑なものと理解して、その自然の力を利用する農業が注目されるようになってきました。そこでの人間の役割は、自然の力を科学技術で支配するのではなく、自然が作物生産を助けてくれるような環境を、いかにして作り上げることができるのか、ということにあります。 ④人間中心の農業から、自然、もつと言えば「土壌の

世界の住人」中心の農業への転換です。

こうした転換は、矛盾して聞こえるかもしれませんが、科学技術の発展が一つのベースになっています。二十一世紀になってから、科学技術（＝分析技術）の発展によって、 ⑤これまでわからなかったさまざまな現象を理解することができるようになって

きたのです。

土と微生物の関係についてもそうです。植物は、単に土壤から栄養分を吸収しているのではなく、土壤微生物と栄養分を相互にやり取りしている関係性にあることがわかってきました。植物は光合成によって、自分の体を形成するセルロースなどの炭素化合物を、水と二酸化炭素から作り出します。その炭素化合物は植物だけが利用するのではなく、根から染み出して土の中に放出されます。それを植物と共生している菌類や、土壤微生物が利用することで、土の世界を豊かにしてくれるのです。その結果として、土の中には有機物が蓄積され、そこにさまざまな生物の豊かな世界が生まれます。こうした点に注目していくのが、「土壌の世界の住人」中心の農業なのです。

また、かつて植物は土から一方的に栄養を吸収していると考えられていました。しかし、それだけでなく、植物は光合成という恩恵を土の世界と共有していることがわかってきた、ということでした。こうした分析技術による成果が、本来の自然力を活かした作物生産へのヒントになっています。雑草についても、土の表面をより多くの植物で覆っておくことで、そこに降り注いでくる太陽の光をくまなく利用して土に送り込める存在として研究が進んでいます。これまで作物と土の養分を取り合う競争相手であった「雑草」は、実はともに土を豊かにする仲間であるかもしれないということが見えてきたのです。雑草には多様な種類があり、背丈や葉っぱの形が異なります。また、葉の広がる方向も、水平方向だけではありません。それが太陽の光を有効活用することに繋がります、面積当たりの生産できる※バイオマスの量は高まります。

土の上の世界だけではありません。土中の植物の生育の様子、つまり根の広がり方も違いますし、それぞれの植物がどのような土壤微生物と関係を結ぶのかも異なるので、いろいろな種類の植物がいることで、土の世界もより多様性が増していくことになるのです。

「土の話ばかりで、酪農とは全然関係ないじゃないか」と思っている方もいるかもしれませんね。そんなみなさん、お待たせしました。ここで、⑥酪農を担う牛たちの登場です。大気と植物と微生物による土の循環を促進する役割をはたすのが、実は家畜

なのです。特に牛の放牧は、この循環を促進する効果があります。さまざまな植物を牛が食べることによって、植物には再生が促されます。それによって、再び二酸化炭素を吸収して植物が成長します。牛がいることは、土の活性化にも繋がります。牛が歩くことで土壌の表面に刺激を与え、またふん尿が栄養分や有機物を補給してくれることにもなります。もちろん、牛が植物を食べ過ぎて、たとえば根こそぎ食べてしまうような状況になれば、植物は再生できないので、土壌は劣化してしまいます。

適切に牛を活用することで、物質循環のサイクルを促進できるのです。

近代農法では、少数の作物を専門的に作るモノカルチャーが効率化のための方法だと考えられてきました。それは人間の都合から見ると確かに効率的でした。色々なものを作るよりも専門化することで、余計な機械や施設への投資は要りませんし、労働も専門化、細分化することで、作業の機械化、自動化にも繋がります。しかし、^⑦そうすることは同時に、土壌の世界を貧しくすることでした。豊かな土壌世界が提供していたことを人間や科学の力で代替し、人間が取って代わろうとした結果が様々な悪影響をもたらしてしまつたのです。これからの人間や科学技術は、土壌の世界を豊かにすることへのサポートに力を入れることで、持続性と生産性の両立が可能となるのではないのでしょうか。

「リジェネラティブ」という言葉は、「再生」という意味を持ちます。世界的に見ると、砂漠化や土壌の劣化が著しく進んだ地域においては、まさに「再生」という意味で、リジェネラティブ農業の実践が進められています。「再生」という言葉が強調されすぎると、現在農業生産が行えている地域では、リジェネラティブ農業の実践は必要ないのでは、と思う人もいるかもしれません。しかし、先に説明したように、土壌の世界を中心とした農業に転換することは、極端に言えば、全ての農業において必要ないとだといえます。

リジェネラティブ農業は、再生だけでなく、土壌の修復、修理、改良というように、それぞれの条件に応じた幅広いものとして捉えていく必要があると思います。そして、その根底にあるのは、「土壌の世界の住人」を中心として農業を考えるとということなのです。

(小林 国之『牛乳から世界が変わる―酪農家になりたい君に―』より)

注 ※ バイオマス：生物由来の利用可能なエネルギー資源。

問一 ——— 線部①「決められた形に従い、型通りの農業を行っていたのでは、土壌の再生はとうてい実現できません」とありますが、これはなぜですか。その理由を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 弱っている土地の原因や状況は様々で、それに対して一つの方法で対処することができないから。
- イ 土壌を再生するためには、決まった方法があり、その方法をとる以外に再生の道はありえないから。
- ウ 一度弱ってしまった土地を再生することは難しく、まだその方法が見つけられていないから。
- エ 自分の土地の土壌の状態を正しく知ったとしても、正しい対処法ができるとは限らないから。
- オ 土壌再生のためには、計り知れない時間と、気が遠くなるほどの人間の手間が必要であるから。

問二 ——— 線部②「土壌には、様々な微生物や動物がすんでいます」とありますが、「土壌」と「微生物や動物」に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 微生物や動物は、土中の有機物を食べつくしてしまうため、植物にとっては害になる存在である。
- イ 微生物や動物が、人間に補給された化学肥料を分解していくことで、土壌の再生が進められていく。
- ウ 微生物や動物が、土中の有機物を分解し無機物を排出することで、植物の生きる場を奪^{うば}っていく。
- エ 微生物や動物が、土中の有機物を分解することで生まれた無機物を、植物が栄養分として吸収していく。

オ 微生物や動物は、人間に大きな収益を上げさせるために、土中で互いに影響しあいながら生きている。

問三 本文中の A く C に当てはまる言葉として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だから イ たとえば ウ また エ しかし

問四 ——— 線部③ 「近代農法」とありますが、この方法の根本にある考え方はどのようなものですか。「く」という考え方。」に続く形で、本文中の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

問五 ——— 線部④ 「人間中心の農業から、自然、もっと言えば『土壌の世界の住人』中心の農業への転換です」とありますが、これについて次の問いに答えなさい。

(1) 「人間中心の農業」に限界が生じたのはなぜですか。本文中の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

(2) 『土壌の世界の住人』中心の農業』とはどういう農業ですか。それを説明した部分を、**これより前の本文中から四十三字**でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問六

——線部⑤「これまでわからなかったさまざまな現象を理解することができるようになってきた」とありますが、その説明として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 植物は、ただ土壌から栄養分を吸収しているのではなく、土中の微生物と、栄養分を相互にやり取りしている関係であることがわかってきた。

イ 植物は土から一方的に栄養を吸収していると考えられてきたが、光合成をすることでできた栄養分を土の世界と共有していることがわかってきた。

ウ 土の表面を覆っている雑草は、そこに注いでくる太陽の光をさえぎってしまうため、土壌の改善をさまたげるといことがわかってきた。

エ これまで、作物と土の中の栄養分を取り合う競争相手とされていた雑草は、ともに土を豊かにしていく存在であるということがわかってきた。

オ たくさんの種類の植物が生きていることで、土中の微生物も様々な活動が可能になり、土中の多様性が増していくことがわかってきた。

問七

——線部⑥「酪農を担う牛たち」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 牛たちは、植物を食べたり、ふん尿によって土壌に栄養分を補給したり、地表を歩き刺激することによって、大気、植物、微生物による土の循環を促進し、土壌の再生のために大きな役割を果たしている。

イ 牛たちが地表の植物を根こそぎ食べてしまうことで、結果的に新しい植物の再生をうながし、さらに二酸化炭素をどんどん吸収していくことで、土地の活性化を促進していく役割を果たしている。

ウ 牛たちがわがもの顔に土地の表面を歩き、土壌に刺激を与え、それが土地の栄養分の循環をうながすことになるはずだが、牛が草を食べることで、土壌の豊かさ自体は劣化してしまうことになる。

エ 牛たちが栄養のいきわたった土壌の地面を踏み固めながら歩き、ふん尿によってさらなる栄養を地面に与え続けることで、土地自体の栄養が増えすぎて、結果的に土壌の質が低下していくことになる。

オ 牛たちは、大気と植物と微生物による土の循環を促進する役割をはたし、それによって土の活性化が促されるのであるが、それは、牛をはじめとする家畜の寿命を延ばすことにつながっている。

問八 ———線部⑦「そうすること」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 多品種の作物を同時に作っていくことで、農業に多様性をもたらしていくこと。

イ 多くの機械や農業施設に巨額の投資をすることで、農業を合理化していくこと。

ウ 農作業を機械化していくことで、たくさん種類の作物を作られるようにすること。

エ 労働を細分化し、効率的に作業をすることで、おいしい農作物を作っていくこと。

オ 少数の作物を専門的に作ることで、農作業全般の効率化を推し進めていくこと。

問九 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学技術をふんだんに利用する近代農法は、農業生産を通じて温室効果ガスの削減や生物多様性の確保といった地球環境の向上のために大きな役割を担ってきた。

イ 現在、近代的な方法でうまく農業生産ができている地域においても、土壌の世界を中心としたリジネラティブ農業への転換を積極的に図^{はか}っていくべきである。

ウ リジネラティブ農業の一番大切なことは、科学の力によって農業を営んでいくことであり、ビニールハウス栽培などはそのよい例として理解されている。

エ 十九世紀から二十世紀にかけて、近代農法から新しい農業へと農業は大きく転換したが、これは科学技術が思うように発展しなかったことが原因として挙げられる。

オ 豊かな土壌世界が提供してくれていたものを、科学の力によって提供することで、農業の世界における持続性と生産性の両立が可能になったのである。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

生まれて初めて、一人でバスに乗った。

家族でデパートに買い物に行くときに、いつも使う路線だ。ものごころついた頃から、月に一度は乗っていた。五年生になってからは親と一緒にいるところを友だちに見られるのが嫌だったので、バス停でも車内でも、わざと両親と離れて一人で乗っていた。だから、大丈夫だ、と思っていた。大丈夫じゃないと困るんだ、とも自分に言い聞かせていた。もう五年生の二学期なんだから。同級生の中には、バスどころか電車にも一人で乗って進学塾に通っているヤツもたくさんいるんだから。

①でも、いままでの「一人」と今日の「一人」は違っていた。『本町一丁目』のバス停に立っているときから緊張で胸がどきどきして落ち着かない。

やっとバスが来た。後ろのドアから乗り込んで、前のドアから降りる。手順はすっかり覚えているはずだったのに、整理券を取り忘れそうになった。

『本町一丁目』の整理番号は7。運転席の後ろにある運賃表で確かめると、整理券番号19の『大学病院前』までは、子ども料金で百二十円だった。家族で買い物に行くときは、いつも17の『銀天街入り口』で降りる。子ども料金は百円。四年生までは、バスに乗り込むとすぐに整理券を母に渡し、母が少年の分もまとめて運賃箱に小銭をいれていた。五年生になってからは、バスに乗る前に百円玉を一つ渡されていた。「落としても、お母さん知らないからね」といたずらっぽく笑う母の顔を思い出した。二人掛けのシートの肩の部分にある取っ手を、強く握り直した。

バスはスピードを上げたかと思うと、すぐにバス停に停まる。そのたびに少年は停留所の名前を確かめて、『大学病院前』まであといくつ、と頭の中で数字を書き換える。降車ボタンを押しそびれてはいけない。整理券をなくしてはいけない。運賃箱の前でもたもたしてはいけない。財布から取り出すときにお金を落としてはいけない。いまのうちに çıkしておこうか。百円玉一つに、十

円玉二つ——コインが一つから三つに増えただけで、握りこんだ手のひらに力をグッと込めないとお金が落ちそうな気がする。

バスは中州ちゆうしゅうのある川に架かかった橋を渡って、市街地に入る。西にかたむいた太陽が街ぜんたいを薄うすいオレンジ色に染めている。

次は大学病院前、大学病院前、と車内アナウンスが聞こえた。お降りの方はお手近のボタンを押して……とつづく前に、ボタンを押した。急いで通路を前に進み、バスがまだ走っているうちに運賃箱のそばまで来た。

「停まってから歩かないと」

運転手に強い声で言われた。「転んだらケガするし、他のひとにも迷惑まわづかいだろ」——まだ若い運転手は、制帽せいぼうを目深まぶかにかぶって前をじっと見つめたまま、少年のほうには目も向けなかった。

数日後、父からバスの回数券をもらった。「十回分で十一回乗れるから、こっちの方が得なんだ」——十一枚綴つづりが、二冊。

「大丈夫だよ」父は少年に笑いかけた。「これを全部使うことはないから」

「ほんと？」

「ああ……まあ、たぶん、だけど」

足し算と割り算をしてカレンダーを思い浮かうかべた。再来週のうちに使いきる計算になる。

「ほんとに、ほんと？」

低学年の子みたいにしつこく A。父は怒おこらず、かえって少し申し訳なさそうに「だから、たぶん、だけどな」と

言った。

回数券の一冊目を使いきる頃には、バスにもだいたい慣れてきた。

「毎日行かなくてもいいんだぞ」

父に言われた。「宿題もあるし、友だちとも全然遊んでないだろ？ 忙しいときや友だちと遊ぶ約束したときには、無理して行かなくてもいいんだからな」——それは病室で少年を迎える母からの伝言でもあった。

母は自分の病気より、少年のことの方をずっと心配していた。自転車でお見舞いに行きたくても、交通事故が怖いからだと言われた。バスで通っていても、病室をひきあげるときには必ず「降りたあと、すぐに道路を渡っちゃだめよ」と釘をさされるのだ。

「大丈夫だよ、別に無理してないし」

少年が笑って答えると、父は少し困ったように「まだ先は長いぞ」と続けた。「昼に先生から聞いたんだけど……お母さん、もうちょっとかかりそうだって」

「……もうちょっと、って？」

「もうちょっとは、もうちょっとだよ」

「来月ぐらい？」

「それは……もうちょっと、かな」

「だから、いつ？」

② 父は少年から目をそらし、「医者じゃないんだから、わからないよ」と言った。

二冊目の回数券が終わった。使いはじめるとあつけない。一往復で二枚ずつ——一週間足らずで終わってしまう。まだ母が退院できそうな様子はない。

「回数券はバスの中でも買えるんだろ。お金渡すから、自分で買うか？」

「……一冊でいい？」

③ ほんとうは聞きたくない質問だった。父も答えづらそうに少し間をおいて、「面倒だから二冊ぐらい買っとくか」と妙におどけた口調で言った。

「定期券にしなくていい？」

「なんだ、おまえ、そんなもの知ってるのか」

「そっちのほう回数券より安いんでしょ？」

定期券は一カ月、三カ月、六カ月の三種類ある。父がどれを選ぶのか、知りたくて、知りたくなくて、「定期って長いほうが得なんだよね」と言った。

「ほんと、よく知ってるんだなあ」父はまたおどけて笑い、「まあ、五年生なんだもんな」とうなずいた。

「……何カ月のにする？」

「お金のことはアレだけど……回数券、買っとけ」

父はそう答えたあと、「やっぱり三冊ぐらい買っとくか」と付け加えた。

次の日、バスに乗り込んだ少年は前のほうの席を選び、運転席をそつと覗き込んだ。あのひとだ、とわかると、胸がすぼまった。初めてバスに一人で乗った日に叱られた運転手だった。その後も何度か、同じ運転手のバスに乗った。まだ二冊目の回数券を使いはじめたばかりの頃、整理券を指に巻きつけて丸めたまま運賃箱に入れたら、「数字が見えないとだめだよ」と言われた。叱る口調ではなかったが、それ以来、あのひとのバスに乗るのが怖くなった。たとえなにも言われなくても、運賃箱に回数券と整理券を入れてバスを降りるとき、いつもムスツとして見えるように見える。

嫌だなあ、運が悪いなあ、と思ったが、回数券を買わないわけにはいかない。『大学病院前』でバスを降りるとき、「回数券、ください」と声をかけた。

運転手は「早めに言ってくれないと」と顔をしかめ、足元に置いたカバンから回数券を出した。制服の胸の名札が見えた。「河野」と書いてあった。

「子ども用のでいいの？」

「……はい」

「いくらなのやつ？」

「……百二十円の」

河野さんは「だから、そういうのも先に言わないと、後ろつつかえてるだろ」とぶつきらぼうに言っ、一冊差し出した。「千二百円と、今日のぶん、運賃箱に入れて」

「あの……すみません、三冊……すみません……」

「三冊も？」

「はい……すみません……」

大きくため息をついた河野さんは、「ちよっと、後ろのお客さん先にするから」と少年に脇にどくよう顎を振った。

④ 少年は頬を赤くして、他の客が全員降りるのを待った。お父さん、お母さん、お父さん、お母さん、と心の中で両親を交互に呼んだ。助けて、助けて、助けて……と訴えた。

客が降りたあと、河野さんはまたカバンを探り、追加の二冊を少年に差し出した。

代金を運賃箱に入れると、「かよってるの？」と、さっきよりさらにぶつきらぼうに聞かれた。「病院、かようんだったら、定期のほうが安いぞ」

⑤ わかっている、そんなの、言われなくたって。

「……お見舞い、だから」

かぼそい声で応え、そのまま、逃げるようにステップを下りて外に出た。全然^⑥とんちんかんな答え方をしていたことに気づいたのは、バスが走り去ってから、だった。

夕暮れが早くなった。買い足した回数券の三冊目が——もうすぐ終わる。

少年は父に「迎えに来て」とねだるようになった。車で通勤している父に、会社帰りに病院に寄ってもらって一緒に帰れば、回数券を使わずにすむ。

「今日は残業で遅くなるんだけどな」と父が言っても、「いい、待ってるから」とねばった。母から看護師さんに頼んでもらって、面会時間の過ぎたあとも病室で父を待つ日もあった。

それでも、行きのバスで回数券は一枚ずつ減っていく。最後から二枚目の回数券を——今日、使った。あとは表紙を兼ねた十一枚目の券だけだ。

翌日からお小遣いでバスに乗ることにした。毎月のお小遣いは千円だから、あとしばらくはだいじょうぶだろう。

ところが、迎えに来てくれるはずの父から、病院のナースステーションに電話が入った。

「今日はどうしても抜けられない仕事が入っちゃったから、一人でバスで帰って、って」

看護師さんから伝言を聞くと、泣きだしそうになってしまった。今日は財布を持って来ていない。回数券を使わなければ、家に帰れない。

母の前では涙をこらえた。病院前のバス停のベンチに座っているときも、必死に唇を噛んで我慢した。でも、バスに乗り込み、最初は混み合っていた車内が少しずつ空いてくると、急に悲しみが胸に込み上げてきた。シートに座る。窓から見えるきれいな真ん丸の月が、じわじわとにじみ、揺れはじめた。座ったままうずくまるような格好で泣いた。バスの重いエンジンの音に紛ら

せて、うめき声を漏らしながら泣きじやくった。

『本町一丁目』が近づいてきた。顔を上げると、車内には他の客は誰もいなかった。降車ボタンを押して、手の甲で涙をぬぐいながら席を立ち、ウインドブレーカーのポケットから回数券の最後の一枚を取り出した。

バスが停まる。運賃箱の前まで来ると、運転手が河野さんと気づいた。それでまた、悲しみがつのった。こんなひとに最後の回数券を渡したくない。

整理券を運賃箱に先に入れ、回数券をつづけて入れようとしたとき、^⑦とうとう泣き声が出てしまった。

「どうした？」と河野さんが聞いた。「なんで泣いてるの？」——ぶつきらぼうではない言い方をされたのは初めてだったから、逆に涙が止まらなくなってしまった。

「財布、落としちゃったのか？」

泣きながらかぶりを振って、回数券を見せた。

じゃあ早く入れなさい、とは、言われなかった。

河野さんは「どうした？」ともう一度聞いた。

その声にすうつと手を引かれるように、少年は嗚咽交じりに、回数券を使いたくないんだと伝えた。母のこともしゃべった。新しい回数券を買おうと、そのぶん、母の退院の日が遠ざかってしまう。ごめんなさい、ごめんなさい、と手の甲で目元を覆った。警察に捕まってもいいから、この回数券、ぼくにください、と言った。

河野さんはなにも言わなかった。かわりに、小銭が運賃箱に落ちる音が聞こえた。目元から手の甲をはずすと、^⑧百二十円、運賃箱に入っていた。もう前に向き直っていた河野さんは、少年を振り向かずに、「早く降りて」と言った。「次のバス停でお客さんが待ってるんだから、早く」——声はまた、ぶつきらぼうになっていた。

次の日から、少年はお小遣いでバスに乗った。お金がなくなるか「回数券まだあるのか？」と父に聞かれるまでは知らん顔して

いるつもりだったが、その心配はいらなかった。

三日目に病室に入ると、母はベッドに起き上がって、父と笑いながらしゃべっていた。

会社を抜けてきたという父は、少年を振り向いてうれしそうに言った。

「
B
」

(重松^{しげまつ} 清^{きよし} 『小学五年生』より)

問一 ——— 線部①「でも、いままでの『一人』と今日の『一人』は違っていた」とありますが、(1)「いままでの『一人』と、

(2)「今日の『一人』」について説明したものととして適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 進学塾に行くために一人でバスに乗る。

イ 進学塾に行く時に友だちと別のバスに乗る。

ウ デパートに行くときに両親と離れて一人でバスに乗る。

エ 買い物に行くときに両親と別のバスに乗る。

オ 母親のお見舞いに行くために一人でバスに乗る。

問二 本文中の A に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 肝きもに銘めいじる イ 棚たなに上げる ウ 息いきをのむ エ 念ねんを押す

問三 ——— 線部② 「父は少年から目をそらし」とありますが、そのときの「父」について説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 母の退院時期を気にする「少年」の気持ちはよく分かるが、明確に答えることができず困っている。
イ 母の退院時期というはつきり分からないことを何度もしつこく聞いてくる「少年」に対して腹を立てている。
ウ 母の退院時期がもうすぐであることを「少年」に隠かくしているため、バレないようにごまかしている。
エ 母の退院時期は医者でさえも分かっていないので、「少年」を納得なごさせる答えを見つけれず悔くやしく思っている。

問四 ——— 線部③ 「ほんとうは聞きたくない質問だった」とありますが、「少年」がそのように感じたのはなぜだと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 購入こうにゅうする回数券の冊数を聞くことで、お見舞いの交通費が高額であることに父が気づき、行くなと言われてしまうから。
イ 購入する回数券の冊数を尋ねることで、母に退院してほしくないと思っていると父から誤解ごされてしまうから。
ウ 購入する回数券の冊数を知ること、母の入院期間がさらに長くなるということがわかってしまう恐れおそがあるから。
エ 購入する回数券の冊数を確認すること、一人さみしくバスに乗る機会が増えることが判明はんめいしてしまうかもしれないから。

問五 ——— 線部④「少年は頬を赤くして」とありますが、ここでの「少年」の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 早く病院に行きたいという焦りと、後回しにされているいらだち、そしてこの場から救い出してほしいという願望。
- イ 早く病院に行きたいという焦りと、迷惑をかけているという恥ずかしさ、そして本当は回数券を買いたくないという願望。
- ウ 回数券をスムーズに買えない焦りと、後回しにされているいらだち、そして本当は回数券を買いたくないという願望。
- エ 回数券をスムーズに買えない焦りと、迷惑をかけているという恥ずかしさ、そしてこの場から救い出してほしいという願望。

問六 ——— 線部⑤「わかっている、そんなの、言われなくたって」とありますが、ここで用いられている表現技法として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 直喩ちゆうご
- イ 倒置法たうちほう
- ウ 体言止め
- エ 擬人法ぎにんぽう

問七 線部⑥「とんちんかんな答え方」とありますが、これについて次の問いに答えなさい。

(1) 「とんちんかんな」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 的外れな様子 イ 機転がきく様子 ウ 落ち着きのない様子 エ 慎重な様子

(2) この場面において、どのような点が「とんちんかん」であるかを説明した次の文の [] に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

少年に対して回数券よりも割安な定期券を購入することを勧め^{すす}てくる運転手に対し、少年が置かれている状況を考えると「 [] 」と答えるのが適切なのに、「お見舞い、だから」と答えたこと。

ア じゃあ、運転手さんの言うとおり定期券にしたいと思います。

イ いつまで病院に通うことになるか分からないから定期券の方が得かは分かりません。

ウ 今は定期券を買う分のお金を持っていないので、とりあえず回数券にしておきます。

エ 別に毎日病院に通っているわけじゃないので、定期券の方が損なんです。

問八 ——— 線部⑦ 「とうとう泣き声が出てしまった」のはなぜですか。その理由として**適当でないもの**を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 両親と一緒にバスで帰ることができないから。
- イ 父が病院に迎えに来ることができなくなったから。
- ウ 今日に限って財布を持ってきていなかったから。
- エ 乗っていたバスの車内にだれもいなかったから。
- オ このバスの運転手が河野さんだと気づいたから。
- カ バスの回数券の最後の一枚を使わないといけないから。

問九 ——— 線部⑧ 「百二十円、運賃箱に入っていた」とありますが、「百二十円」が「運賃箱に入っていた」のはなぜですか。その理由を説明しなさい。

問十 本文中の

B

に当てはまる言葉として最も適当だと考えられるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア おまえ、財布落としてたんだって。
- イ もう回数券なくなってたんだろ。
- ウ お母さん、あさって退院だぞ。
- エ お父さんが迎えに行けなかったからって、バスの中で泣くなよ。

【問題はこれで終わりです。】

Blank box for the student's examination number.

【一】

問一	⑤ 伝統	① かいが
	⑥ 飼育	② おうりよう
	⑦ 導入	③ へ
	⑧ 拾う	④ ころぎす

問二

① オ
② ア
③ エ
④ ウ

問三 (1)

ア
オ

(2)

ウ

【二】

問一

ア

問二

エ

問三

A
ア
B
イ
C
エ

問四

を	析	自
上	し	然
げ	、	の
て	人	仕
い	間	組
く	が	み
	合	を
	理	、
	的	科
	に	学
	支	の
	配	力
	す	に
	る	よ
	こ	っ
	と	て
	で	細
	生	か
	産	く
	性	分

という考え方。

問五 (1)

し	て	人
く	、	間
な	外	の
っ	部	自
て	か	然
い	ら	へ
る	の	の
か	関	関
ら	わ	わ
。	り	り
	を	の
	続	範
	け	囲
	て	が
	い	広
	く	く
	こ	な
	と	り
	が	す
	難	ぎ

(2)

複
雑
で
よ
く
く
用
す
る
農
業

問六

ウ

問七

ア

問八

オ

問九

イ

【三】

問一 (1)

ウ

(2)

オ

問二

エ

問三

ア

問四

ウ

問五

エ

問六

イ

問七 (1)

ア

(2)

イ

問八

ア

エ

問九

河野さんが代わりにお金を出してくれたから。

問十

ウ

二〇二六年度

和歌山信愛中学校

入学試験 B日程

国語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題冊子のすべてのページがそろっていることを確認して、解答を始めなさい。
 - 二 問題冊子は1ページから25ページまであります。
 - 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
 - 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
 - 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
- 解答用紙は、問題冊子の上に開いたまま裏返して置きなさい。
- 〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること〉

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑨の——線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 長い髪を後ろで束ねる。
- ② 返事をいったん保留する。
- ③ もっと奮起してほしい。
- ④ このままでは値上げは必至である。
- ⑤ クラブの代表にしゅうにんする。
- ⑥ 土地をたがやす。
- ⑦ これはねつたい地方の花だ。
- ⑧ 新たな門出をしゆくふくする。
- ⑨ てつきようが川にかけられた。

問二 次の①～⑤はことわざです。() に当てはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- | | | |
|--------------|-----------------|------------------|
| ① 早起きは三文の() | ② () ある鷹は爪をかくす | ③ かわいい子には()をさせよ |
| ④ 類は()を呼ぶ | ⑤ まかぬ()は生えぬ | |

(1) に当てはまる質問として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア もともと和歌山市の出身ですか
イ パンが好きなんですか
ウ なぜパン屋になったのですか
エ 和歌山市はパン屋が多いのですか

(2) — 線部「歴史が好き」ということですが、特に何時代が好きですか」という質問は、どのような役割をもつ質問ですか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の話のあいまいさを指摘し、問題点を整理する役割。
イ 話の流れをおさえ、発言の意図にふみこんでいく役割。
ウ 自分も同じ話題に関心があると相手に共感を示す役割。
エ 相手の答えを受けて、さらに具体的に発展させる役割。

(3) このインタビューをもとに、信子さんは次のような発表をしました。() に当てはまる言葉を、二十字以内で答えなさい。

パン屋を営む山田さんについて紹介します。群馬出身の山田さんは江戸時代の歴史が好きで、和歌山城や和歌浦が特にお気に入りだそうです。山田さんのお店には焼きたてが食べられるカフェ・スペースがあり、毎週新しい種類のパンが並びます。元気で明るい山田さんが作る()パンは、町の人たちに大人気です。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「二十一世紀は環境の世紀」とよくいわれます。今世紀は良好な環境を守ることがもつとも大きな課題になると考えられています。有害化学物質による水や大気、土壌の汚染、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊など、さまざまな種類の、そして異なる規模の環境問題がすでに生じています。これらは、巨大な人口にふくれあがり、また石油や石炭などの化石燃料を使って活動が活発になった人類によって引き起こされたものです。それが人類をとりまく環境を変え、生態系の変化につながり、そして人類自身の生存を脅かす日が来るのが危惧されています。このことは、人という特定の生物が、環境を、そして生態系を変えているといえます。このように考えると、人類の力の強大さを感じます。しかし、ここで疑問が生じます。この生態系に及ぶ、特定の生物による強い影響力は、人類だけが持ち得たものでしょうか。

それに対する答えは「否」です。① 同様のことは水の中でも起きているのです。

② ※ 富栄養湖では湖底付近の酸素濃度が低くなります。酸素がまったくなくなることもしばしばあります。この環境がつけられた原因は植物プランクトンの大量発生にあります。大量の植物プランクトンによって大量の有機物が生産され、これらはさまざまな生物に利用されながら、沈み、湖底に降り積もります。そして湖底でバクテリアの分解作用を受けます。このとき、大量の酸素が消費されるのです。これは植物プランクトンという生物が、湖底の非生物的環境を変えたといえるでしょう。そして、それによって生じた湖底での酸素の消失は、そこに生息する貝類を殺します。このことは、地球上で「人」という生物が大気中の窒素酸化物や硫酸酸化物濃度を高くすることで非生物的環境を変え、それが酸性雨を発生させて森林や湖の生物群集に影響を及ぼすことと、よく似ていますね。すなわち、非生物的環境が生物に影響を与えたのです。

植物プランクトンの増加は湖底の酸素濃度を低下させるだけではありません。光合成によって酸素を発生させるので、植物プラ

ンクトンが多く分布する湖の表層では水中の酸素濃度を上昇させます。③

高浜入という入り江で湖水中の環境を測定したところ、水深〇・二メートルの表層で、水温が三一・八℃、酸素濃度が一リットル当たり一四・八ミリグラムという値が得られました。

水に溶ける酸素の量は水温が高くなるほど少なくなります。純水に酸素を溶かしたときの最大濃度（飽和酸素濃度）は、三一・八℃では一リットル当たり七・三四ミリグラムであることがわかっています。すると、霞ヶ浦で測定された酸素濃度の一リットル当たり一四・八ミリグラムは、飽和酸素濃度の二倍を超えていたことになります。つまり、これはアオコをつくっている大量のラシ藻がどんどん酸素をつくったため、酸素がむりやり湖水中に溶かされた状態だったのです。

また、植物プランクトンは光合成で水中の二酸化炭素を吸収します。それによって水中の炭酸のバランスがくずれて水素イオン濃度が低下するためにpHが高くなります。つまりアルカリ性になります。八月の霞ヶ浦ではpHが九・八一と、ほぼ一〇に近い値でした。これはかなりアルカリ性の強い水だといえます。アオコの発生でpHが一〇を超えたとき、強いアルカリ性のために、そこに生息するミジンコの多くが死んだという報告があります。この場合も、植物プランクトンが非生物的環境を変え、それがまた生物に影響を与えた例といえましょう。

非生物的環境が生物群集に影響を与えることを生態学では「作用」と呼び、生物が非生物的環境を変えることを「反作用」と呼びます。この呼び方を見ると、一般的には作用のほうで、反作用のほうで、 x で、反作用のほうで、 y であるという認識があるように思えます。作用のほうが反作用よりも強いはたらきであると考えられているのでしよう。確かに、生物たちの活動は、温度や光、酸素濃度などの影響を強く受けています。ところが、 x 反作用の力もばかにはできません。それを湖沼生態系の中で、植物プランクトンが示してくれました。また地球生態系の中で、人類が示したのです。

生態系を大きく変える力は人類だけが持っているものではなく、湖の中の植物プランクトンのように、ほかにも多くの生物群がその力を持っています。また、⑤このことは地球上の生物進化の歴史を見ても分かります。

地球が誕生した当初、大気中には酸素がありませんでした。そんな中、今からおよそ三十八億年前に初めての生命が海の中で生まれました。バクテリアです。酸素のない環境に適応した嫌気性[※]の生物です。

そして、三十億年ほど前になって、光合成をするバクテリアが生まれました。これはシアノバクテリア（ラン細菌、またはラン藻）と呼ばれています。この生物が光合成を始めたことで酸素がつくられるようになりました。その結果、海水中の酸素濃度がしだいに上がり、それが大気へも拡散していったのです。

その後、二十億年ほど前になったときに光合成をする真核生物の藻類が現れました。真核生物とは細胞内に核膜を持った生物で、その中に主要な遺伝子が包みこまれています。これは核膜を持たないバクテリア（原核生物）とは細胞の構造が大きく異なります。ちなみに、現存する生物は、バクテリアとシアノバクテリアを除くとすべてが真核生物です。海の中で真核生物の藻類が現れたことで酸素の生産が加速され、大気中の酸素濃度が高くなりました。

A、大気中で大きな変化が起きました。大気中の酸素が太陽から送られてきた紫外線と反応してオゾンが生まれたのです。このオゾンが成層圏の下層に広がり、大気中での紫外線の透過を妨げるようになりました。

それまでの生物は、すべてが海の中でくらししており、陸上には存在していませんでした。その大きな理由は紫外線の悪影響にあったと考えられています。紫外線は生物の持つ遺伝子を壊すので、生物にとって大変有害なものです。**B**、大量の紫外線が降り注ぐ陸上では、生物は生きていくことができませんでした。

C、唯一生息できる場所がありました。それは水の中だったのです。紫外線は水に吸収されてしまうので、紫外線が水中に入るとその量は急速に減衰します。そのため、水中の生物は紫外線の悪影響を受けずにすんだのです。

ところが、大気中にオゾン層がつくられたことで地上に降り注ぐ紫外線量が大きく減少しました。これが生物の陸上への進出を可能にしたのです。その結果、コケ類やシダ植物が上陸し、それに遅れて陸上で生活するさまざまな動植物が現れるようになったのです。

D、ここまでのことを「作用」と「反作用」という視点から考えてみましょう。

まず、最初に生まれた生物は嫌気性バクテリアです。これは、酸素がないという非生物的環境があつたので、このような生物の誕生につながりました。そこで、この生物の出現には、「I」がはたらいたと考えられます。ところが、この嫌気性バクテリアが進化してシアノバクテリアが生まれました。この生物と、その後に見れた藻類によって、海中はもとより大気にまで酸素があふれるようになりました。これは生物が大気環境を変えたので、大きな「II」のはたらきといえます。その際、環境中に酸素が増えたため、酸素を嫌う嫌気性生物の多くが死滅することになりました。今も嫌気性バクテリアは地球上に生息していますが、それは土壌中や水域の底泥の中など、酸素のない場所に限られています。

このように、地球の歴史を考えても作用と反作用がはたらいており、非生物的環境と生物群集はおたがいに影響し合いながら変化を続けてきたことが分かります。

ここで重要なことはシアノバクテリアと藻類の誕生です。これらの生物は光合成をすることで海中や大気中に酸素をあふれさせました。そして、それまで生物圏を席卷していた嫌気性生物の多くを絶滅に追いやったのです。このことを考えると、シアノバクテリアと藻類が今の人類に似ているように思いませんか。今の人類も、大気環境をふくめて地球上の多くの環境を変え、その結果、多くの生物種が絶滅し、または絶滅の危機に瀕しています。

今、人類のこの環境へのはたらきかけが問題視されていますが、地球の歴史を見ると同様のことが起きていたのです。

したがって、湖の中の生物群集と非生物的環境とのかかわりを知ることによって、また地球上の生物たちの進化の歴史を理解することによって、私たち人類が今後どのように生きていったらよいのか、そのヒントが得られるかもしれません。

注 ※ 富栄養湖 …… 水中の栄養分が豊富で、植物プランクトンが異常繁殖する湖沼。

※ アオコ …… 植物プランクトンの一種であるラン藻（シアノバクテリア）が大量に増殖し、水面を覆い尽くすほどになった状態、およびその藻類のこと。

※ 嫌気性の生物 …… 酸素を必要としない、または酸素を嫌う性質の生物。

問一 ———— 線部①「同様のこと」とは、どういうことを指しますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ささまざまな種類の、異なる規模の環境問題がすでに生じていること。
- イ 特定の生物の活動が環境を変え、生態系を変化させていること。
- ウ 人類が石油や石炭を使って活発な活動をしていること。
- エ 人類の生存を脅かす危機がせまってきたこと。

問二 ———— 線部②「富栄養湖では湖底付近の酸素濃度が低くなります。酸素がまったくなくなることもし珍しくありません」とあります。富栄養湖ではなぜ湖底付近の酸素濃度が低くなるのですか。本文中の言葉を使って、六十字以内で説明しなさい。

問三 ——— 線部③ 二一九八四年八月に、アオコが大発生していた霞ヶ浦の高浜入という入り江で、一四・八ミリグラムという値が得られました」とありますが、これはどういう状態だったのですか。本文中から五十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問四 本文中の x と y に当てはまる漢字の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア x「善」、y「悪」
- イ x「軽」、y「重」
- ウ x「利」、y「害」
- エ x「主」、y「従」

問五 ——— 線部④「反作用の力もばかにはできません」とありますが、このように筆者が考える根拠きよとなる例として最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 温度や光、酸素濃度などの非生物的環境は、生態系を変化させるほど大きな影響を与えたこと。
- イ 植物プランクトンの光合成は、ミジンコを死滅させるほど強いアルカリ性に湖水を変化させたこと。
- ウ 植物プランクトンからなるアオコは、湖の表層の酸素濃度が上昇したことで大量に発生したこと。
- エ 純水に酸素を溶かした時の飽和酸素濃度は、水温が高くなればなるほど小さい値になること。

問六 ——— 線部⑤「このこと」とは、どのようなことですか。本文中の言葉を使って、四十字以内で答えなさい。

問七 本文中の A く D に当てはまる言葉として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア では
- イ なぜなら
- ウ だから
- エ すると
- オ しかし

問八 本文中の I、II に当てはまる言葉を、それぞれ答えなさい。

問九 この文章について生徒たちが話し合っています。本文の内容をふまえた意見として**適当でないもの**を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア A子……三十八億年前に初めて生命が海の中で生まれたのは、水が生物にとって有害な紫外線を吸収し、水中では紫外線の影響を受けずにすんだからだと思うよ。

イ B子……その後、二十億年ほど前に、それまでの生物とは細胞の構造がちがう真核生物の藻類が出てきたんだね。生物が陸上に進出するきっかけをつくったと言えるよね。

ウ C子……オゾンがなかったら、強い紫外線のために、海中の生物も影響を受けるかもしれないね。そうしたら真核生物の藻類も誕生していなかったんじゃないかな。

エ D子……光合成をするシアノバクテリアと藻類、そして人類は、筆者の言うとおり、地球上の環境を変化させて多くの生物を絶滅させたという点でたしかに似ているよ。

オ E子……湖の中だけではなく地球の歴史を見ても「作用」と「反作用」が働いているね。だから、今私たちが直面している環境問題も仕方がないと筆者は考えているね。

カ F子……私も、生物群集と非生物的環境とのかわりや生物進化の歴史を学んで、人類が今後この地球上でどのように生きていけばよいかについて考えていきたいと思ったよ。

【三】 次の文章は松本祐子の小説『8分音符のプレリユード』の一節です。主人公「秋山果南」は吹奏楽部でフルートを吹いています。二学期が始まって一ヶ月以上経つ中途半端な時期に、果南は信頼している新藤先生から「うちのクラスに転校生が来るから、その子のお世話をお願いできないかなあ」と頼られました。次の文章はそれに続く場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

「ねえねえ、知ってる？ 今日、うちのクラスに転校生が来るみたいよ。さっき、新藤先生が、知らない子といっしょに校長室に入っていくのを見た人がいるって」

「男の子？ 女の子？」

「女の子だって」

「ふくん。どんな子かなあ？」

教室は、朝からその話でもちきりだった。果南は、実は自分だけ、先生から前もって知らされていたことは黙っていたけれど、内心、ちよつと得意だった。とは言え、転校生について、何か特別な情報をつかんでいるわけでもないし、よくよく考えてみれば、それほどいばれる立場ではない。

それでも、果南は、これからやってくる見知らぬ転校生に対して、^① すっかり保護者めいた気分になっていた。先生に頼まれた責任を果たすために、すでに昨夜から、自分なりに、いろいろ準備をはじめている。

がらりとドアが開き、新藤先生が教室にあらわれると、^② クラスのほぼ全員の目が、次に入ってくるはずの転校生の姿を求めて、いつせいにドアのほうに向けられた。

一瞬、二年C組の教室は、水を打ったように静まりかえった。それから……だれかが、みようにおとなびた口笛を吹きならす。教室の前に立っていたのは、ひと目見たら、ぜったいに忘れられないような、ひどく印象的な容姿の持ち主だった。ほっそりし

て手足が長く、そんなに長身というわけではないのに、男の子みたいに思いきり短く髪をカットしているせい、か、いつそうスタイルがよく見える。

ふつうの女の子にはあり得ないほどの髪の短さは、なんだかどつてつけたみたい、ちぐはぐな感じがした。まるで、わざと似合わない髪型を選んだような投げやりさが、^③見る人の心にちくりとトゲを刺す。

「今日はみなさんに、新しいクラスメートを紹介します。はたの・とうこさんです」

新藤先生が型どおりのあいさつをしてから、黒板に〈波多野透子〉と書いた。

「それじゃ、波多野さん、自己紹介してもらえますか？」

先生にうながされると転校生はにこりともせず、ほんの少し前が出る。

「波多野です。よろしくお願ひします」

波多野透子は、ほとんど感情のこもらない声で言い、軽く頭をさげた。けれど、それっきり、何もしゃべらず、元通りに顔を上げて、まっすぐ前を向いた波多野透子の切れ長の目は、どこか遠い空を見つめているようだった。

果南は息苦しいほどの沈黙に包まれながら、じっとその奇妙な転校生を見つめていた。クラス全員の視線が突き刺さるように向けられているというのに、転校生は、^④自分とはまるで無関係なこととして、この状況から自分を切り離しているように見え

た。
「え……と、自己紹介はそれだけ？」

気まずい沈黙にあわてたように、新藤先生がたずねる。波多野透子は小さくうなずいた。先生が何か言いかけて、ぐつと言葉のみこむのが果南にはわかった。それから、先生はもう一度、気を取り直したように口を開く。

「それじゃ、そのあいてる席にすわって」

波多野透子は、言われるままに、窓ぎわの前から二番目の席についた。

一時間めの授業は、みんな、ほとんど^a上の空だった。転校生が気になってしかたないのだ。朝のホームルームがのびたせいで、新藤先生と入れ替わりに国語の宮下先生が入ってきたので、まだ誰も転校生に話しかけるチャンスがない。

休み時間になると、さっそく女子たちが、転校生のまわりにむらがつた。果南も仲間にくわわたりたかったが、いつもの黒板ふきをさぼるわけにもいかず、しぶしぶ「仕事」をしながら、^⑤耳だけはしっかり、みんなの会話にかたむける。

「ねえねえ、波多野さん、どつから転校してきたの？ ひよつとして、帰国子女？」
いつものごとく、お調子者の詩織がまっさきに口を切る。

波多野透子の独特の雰^{ふん}囲気は、たしかに日本人ばなれしていて、果南も、帰国子女かもしれないという気がしていた。けれど、予想に反して、「いいえ」という短い返事が聞こえてくる。

「なんだあ。ちがうんだあ。でも、波多野さんって、どことなく、帰国子女っぽいよね」

「うんうん、あたしも、そう思ってた」

女の子たちは口々に^b無^む邪^{じや}気^きな感想^{かんさう}をのべあう。

「じゃ、どつから引^ひ越^こしてきたの？」

べつのだれかがたずねた。

「引^ひ越^こしはしてないけど」

それが波多野透子の返事。

「え？ だったらどうしてここに転校してきたの？」

「前の学校、やめたから」

「……………」

そっけない答えに、教室じゅうがしーんと静まりかえった。

「やめたって、どうして……?」

しばらくして詩織がたずねたが、^⑥さすがに今度は遠慮がちだ。

「いろいろあって」

それだけ言うと、波多野透子は、それ以上の質問を拒否するように、いきなり立ち上がり、みんなの注目を浴びながら、すっと教室を出ていった。

「ちよっと、今のどーゆーことオ?」

透子の背中を見送ったあと、だれかが大きな声でさげんだ。

「いろいろあったって、なんなのよねえ?」

「ひよっとして、退学させられたとか?」

転校生への興味は一転して敵対心へと変わっていった。

(中 略)

「ねえ、これ、見て!」

教室に入ってくるなり、詩織が得意げにさげんだ。高く上げた右手には雑誌が握られている。ヘクラシック・ファンという名前の格調高い音楽専門誌だった。表紙には、白いノースリーブのドレスを着た少女がピアノを弾いている写真が載っていた。

「これ、波多野透子だよ」

詩織が言ったとたん、まわりじゅうからおどろきの声が上がった。

「あの転校生、いったい、何者?」

だけれが、おどろきもあらわにさげんだ。写真の華やかさとは。うらはらに、記事の見出しには、〈天才少女の悲劇！〉という活字がおどっている。

「あの人、七月に交通事故に遭ったらしいんだ」
詩織が記事の内容を説明し始めた。

「小さいころから、天才少女ピアニストって言われてて、去年、全日本ジュニア・ピアノコンクールで優勝したんだけど、七月の事故で指に怪我をして、ピアノが弾けなくなっちゃったんだって」

「怪我……？」

果南は思わず、息をのんだ。

「波多野さんのお父さんって、音大のピアノ科の教授で、うちの先生も、学生時代、レッスンを受けたことがあるんだって。だから波多野さんが優勝して、雑誌の表紙になったとき、ピアノの先生が『この子、詩織ちゃんと同じ年なのよ』と言って、見せてくれたんだ。それで、昨日、波多野さんがうちの学校に転校してきたこと、先生に話したら、事故のこと教えてくれて、この写真週刊誌もいっしょに貸してくれたの。あの子、前は音大附属の中学にいったらしいよ」

「もうピアノが弾けなくなったから、その中学、やめたんだ」

「それって、すごくかわいそうな話じゃない？」

「あんな態度とってるのは、人生投げちゃってるからかあ」

「なんたって、悲劇のヒロインだもんねえ」

透子に対するみんなの見方が、あきらかに変わり始めるのがわかった。

「ちよっと、ここ、お母さんも元ピアニストだって書いてあるよ！」

「へえ。つまり、いわゆるサラブレッドってやつ？」

「もう一生、ピアノが弾けないなんて、ものすごくショックだっただろうね」

やっかみと同情が入り交じった感想が飛び交う中、がらりとドアが開き、噂の張本人があらわれた。みんなの視線をいつせいに浴びても、例によって、何も感じていないような顔で教室に入ってくる。

「天才ピアニストのおでましよ」

だれかが、ぼそっとつぶやいた。席にっこうとした波多野透子が、めずらしく、びっくりと反応して、声のしたほうに目をやる。教室の空気がびんと張りつめるのがわかった。

「波多野さん、交通事故に遭ったんだって？」

透子の目がとまったところにいた高木知栄が、今度は、はっきりした声でたずねた。

「怪我はもう、だいじょうぶなの？」

「指が動かなくなっちゃったって、ほんと？」

「ほんとに、もう一生、ピアノ弾けないの？」

好奇心をむきだしにして、みんなが口々にたずねる。とつぜんの質問責めに、透子はいつものクールな鎧を失い、一瞬、とても無防備に見えた。ひよつとすると、泣きだすのではないかと、なかば期待するような空気が教室にただよう。

「やめなよ、みんな！」

果南はいきおいよく立ち上がって、さげんだ。その拍子に、机の上から、ヘクラシック・ファンがばさりと落ちる。透子の目が床に落ちた雑誌をとらえ、それから、軽蔑するように果南をちらりと見て、そのまま何も言わずに自分の席に着いた。果南は頬にかつと血が上るのを感じた。

なんという間の悪さ。この雑誌をわざわざ学校に持ちこんで、透子の悲劇について、あることないことふれまわったのは、果南だと思われたかもしれない。

「果南って、ほんとに（いい人）だよねえ」

高木知栄が嫌味な調子でつぶやいた。果南が何か言い訳の言葉を口にしようとしたとき、教室の前のドアががらりと開いて、出席簿をかかえた新藤先生が入ってくる。

それを合図に、みんながいつせいに席に着いた。ひとりだけ、つつ立ったままだった果南は、げんげんな表情の新藤先生と目があって、はっと我に返り、あわてて落ちた雑誌を拾い集め、机の中につっこみながら、すわった。

教室のみように張りつめた空気に気がつかないはずはないのに、新藤先生はほんの少し眉を動かしただけで、何も言わない。透子が転校してきてから、先生はなんだかいつも、こんな調子なのだ。

果南はまるで大嫌いな長距離走のあとみたいに、胸が苦しかった。実体のない痛みをこらえるために、うつむいて、けんめいに唇をかんだ。

心にうずく、このわけのわからない感情は、いったい、何なんだろう？ 透子があまりにも自分のまわりに高い壁を築きすぎるから、いくらかばってあげようとしても、どうにもならない。

いや……ちがう。透子を哀れむことができたら、きつと、こんなに苦しいはずはないのに。

だれかを哀れむということは、意地悪な見方をすれば、その人の不幸にくらべて、自分のほうが幸せだと、心の中でひそかに確認することかもしれない。

それで言えば、^⑦果南には、透子が哀れだなんて少しも思えなかった。波多野透子は生まれながらに神に選ばれた特別な存在で、その悲劇的な事故さえ、この上もなくドラマチック。透子のせいで、自分がただの平凡でちつぽけな（その他大勢）のひとりに過ぎないということ、いやというほど思い知らされる。

優等生の果南は、今まで、人からねたまれることはあっても、人をねたんだりしたことはなかった。それは、果南が心の広い人間だったからではなく、たぶん、いつだって自分が一番だとなくなくと優越感にひたっていたから。

⑧ その動かしがたい〈事実〉の発見が、何よりもショックだった。透子さえ転校して来なければ、自分のこんなあさましい一面に気づかないですんだのに。

今まで果南は自分自身にかなり満足していた。きちんとしていて、勉強もできて、その上、他人にも親切ない人だと自分でも思っていた。でも、それがただの錯覚さくごに過ぎないとわかった今、平和でおだやかな日々は永久に失われてしまったのだ。

一時間目の授業がはじまって、先生の声なんか、少しも耳に入らない。果南が考えていたのは、ただ、心の中に芽生えたこのどす黒い感情を、決して、だれにも知られてはならないということだった。

問一 〰〰〰線部 a 「上の空」、b 「無邪気な」、c 「うらはらに」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「上の空」

- ア 落ち着いていること
- イ 集中していないこと
- ウ とまどっていること
- エ やる気のないこと

b 「無邪気な」

- ア 思いやりのない
- イ 素直すなおで悪気がない
- ウ 悪意のある
- エ ばかげた

c 「うらはらに」

- ア 同じくらいに
- イ 関係ないように
- ウ 正反対に
- エ 似合わずに

問二 ―― 線部① 「すっかり保護者めいた気分になっていた」とありますが、このときの「果南」の様子を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 転校生に対して、いろいろと世話をやかないといけないと思ひ、面倒くさがっている。
- イ 転校生に対して、自分がしっかりと面倒をみてあげないといけないとはりきっている。
- ウ 転校生に対して、期待されるようにお世話できないかもしれないと自信をなくしている。
- エ 転校生に対して、いじめっ子がいたら守ってあげないといけないと使命感に燃えている。
- オ 転校生に対して、先生に言われた役目を必ず果たさなければ申し訳ないとあせっている。

問三 ―― 線部② 「クラスのほぼ全員の目が、次に入ってくるはずの転校生の姿を求めて、いつせいにドアのほうに向けられた」とありますが、このときの「クラスのほぼ全員」の気持ちを表す言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 反抗心
- イ 闘争心
- ウ 探究心
- エ 好奇心

問四 ── 線部③ 「見る人の心にちくりとトゲを刺す」とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 見る人に違和感をいだかせるということ。
- イ 見る人に不快感をいだかせるということ。
- ウ 見る人に嫌悪感をいだかせるということ。
- エ 見る人に不信感をいだかせるということ。
- オ 見る人に達成感をいだかせるということ。

問五 ── 線部④ 「自分とはまるで無関係なこととして、この状況から自分を切り離しているように見えた」とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア クラス全員の視線がするどく向けられているのに、機嫌よさそうにしているのが変に見えたということ。
- イ 容姿についてみんなから注目されているのに、自分だけはまともだと思っているように見えたということ。
- ウ 自分がクラス全体の空気を重くしているのに、そのことにまったく気づいていないように見えたということ。
- エ まっすぐ前を向いた切れ長の目をした美人なのに、自分では容姿を気にしていないように見えたということ。
- オ クラスのみんなの注目が集まっているのに、本人はまったく気にかけていないように見えたということ。

問六 —— 線部⑤ 「耳だけはしっかり、みんなの会話にかたむける」とありますが、このときの果南の様子を説明したものと

て最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア クラスの女の子たちと透子がどのようなやりとりをするのかが気になって会話を聞いている。

イ 容姿のおかしな透子にクラスの誰かが嫌なことを言うのではないかと心配して会話を聞いている。

ウ 独特な雰囲気の子は性格が悪い子ではないかと思ひ、正体を見破ろうとして会話を聞いている。

エ いつも自分ばかり掃除そうじを押し付けられていることに対して不満をもってみんなの会話を聞いている。

オ 気安く透子に近づけない引っこみ思案な自分自身にいらだちながら、みんなの会話を聞いている。

問七 —— 線部⑥ 「さすがに今度は遠慮がちだ」とありますが、このとき詩織はなぜ「遠慮がち」になったと考えられますか。

その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 詩織の言うことに周りがいらだっていると感じたから。

イ 透子の転校してきた理由が複雑そうだと感じたから。

ウ 透子の態度が、あまりにもそっけないと感じたから。

エ 詩織の予想に反して、透子は性格が悪いと感じたから。

オ 透子の独特な雰囲気と暗い発言を不気味に感じたから。

問八 線部 i 「られ」、ii 「らしい」と同じ働きのものをそれぞれ後のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

i 「退学させられたとか？」

- ア ビルのない昔は、この町から富士山が見られた。
イ 教えられたとおりに進むと、無事たどり着いた。
ウ 午後になって、ようやくお客さまが来られた。
エ 吹く風に秋の気配が感じられた。

ii 「交通事故に遭ったらしいんだ」

- ア 天気予報によると、明日は雨が降るらしい。
イ ふり返ると、すばらしい小学校生活でした。
ウ 中学生らしい活発な意見を期待します。
エ それはあなたらしい判断だね。

問九 ——— 線部⑦ 「果南には、透子が哀れだなんて少しも思えなかった」のは、なぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 怪我をしてピアノが弾けなくなった透子に同情はするが、彼女の性格の悪さが気にさわったから。
イ 怪我をした透子を哀れむことは、自分と比べて不幸だと思うことで、失礼なことだと思ったから。
ウ 怪我をしたとはいえ透子は特別な存在で、ありふれた人間である自分よりも格上だと思ったから。
エ 怪我をした透子はドラマチックな人生を送っているが、自分は平凡ほんな人生を送りたいと思ったから。
オ 怪我をしてピアノが弾けなくなったのに、くじけていない透子のことを応援えんしようと思えたから。

問十 ——— 線部⑧ 「その動かしがたい〈事実〉」とは、どのような事実ですか。本文中の言葉を使って、六十字以内で説明しなさい。

【問題は、これで終わりです。】

【一】(25点)

⑨ 鉄橋	⑤ 就任	① たばねる
書き：各2点	⑥ 耕す	② ほりゆう
	⑦ 熱帯	③ ふんき
⑧ 祝福	④ ひっし	

読み：各1点

問一

①
得
②
能
③
旅
④
友
⑤
種

各1点

問二

①
得
②
能
③
旅
④
友
⑤
種

各1点

問三

(1)
ア
2点
(2)
エ
2点
(3)
素材にこだ
だわつた、安心して
て口にできる
る
パン

2点

【二】(39点)

問一

イ

3点

問二

大	有	け
量	機	る
の	物	と
植	が	き
物	、	、
プ	湖	大
ラ	底	量
ン	で	の
ク	バ	酸
ト	ク	素
ン	テ	が
に	リ	消
よ	ア	費
っ	の	さ
て	分	れ
生	解	る
産	作	か
さ	用	ら
れ	を	。
た	受	

4点

問三

ア
オ
コ
を
つ
く
さ
れ
た
状
態

3点

問四

エ

3点

問五

イ

4点

問六

人	生
類	態
だ	系
け	を
で	大
は	き
な	く
く	変
、	え
ほ	る
か	力
に	を
も	持
多	っ
く	て
の	い
生	る
物	こ
群	と
が	。

4点

問七

A
エ
B
ウ
C
オ
D
ア

各2点

問八

I
作用
II
反作用

各2点

問九

ウ
オ

各3点

--

問十			問九	問八	問六	問四	問二	問一		
感	、	自	ウ	i	ア	ア	イ	a		
に	い	分		イ				イ	イ	イ
ひ	っ	が		ii				3点	3点	3点
た	だ	今	3点	ア	問七	問五	問三	イ		
っ	っ	ま			イ	オ	エ	c		
て	て	で		3点	3点	3点	ウ			
い	自	人		3点	3点	3点				
た	分	を		3点	3点	3点				
か	が	ね		3点	3点	3点				
ら	一	た		3点	3点	3点				
で	番	む		3点	3点	3点	各2点			
あ	だ	こ		3点	3点	3点				
っ	と	と		3点	3点	3点				
た	な	が	3点	3点	3点					
と	ん	な	3点	3点	3点					
い	と	か	3点	3点	3点					
う	な	っ	3点	3点	3点					
事	く	た	3点	3点	3点					
実	優	の	3点	3点	3点					
。	越	は	3点	3点	3点	各2点				
5点										

二〇二六年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程（午後）

作文（五〇分）

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題用紙、解答用紙、下書き用紙がそろって
いることを確認して、解答を始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
解答用紙と下書き用紙は、問題冊子の上に開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、あなたの感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

仕事中はどうしたってデスクの上が散らかります。仕事は多くの場合、パソコンの画面だけでは完結しないので、書類や本、ノート、筆記具などが散乱しているでしょう。それはいい。がんばって仕事をしたことの証あかしでもありますから。問題は、デスクの上を片づけずに、帰ってしまうことです。

なぜなら明日の朝、まっさらな気持ちで「さあ、はじめるぞ！」と仕事に向き合うことができないからです。デスクの上が散らかっていると、それだけでやる気が削そがれます。また今日の仕事に必要なものを見つけるのが大変です。「何からやればいいんだっけ」から、仕事をはじめなくてはならなくなります。人によつては「片づけられないほうが前日の続きの仕事に入りやすい」というかもしれません、そうでしょうか。昨日を引きずり、頭の整理がつかないと私は思います。

一日の仕事を終えたら、デスクの上をきれいに片づける。それは今日にとらわれないケジメ。精神衛生上、大事なことです。明日の準備のために、朝から気持ちよく働くために、「夕方の片づけ」を日課とすることをおすすめします。

自宅で一日を終えるときも同じ。部屋を片づけたほうが、朝起きたとき、気持ちがいいでしょう？ 散らかったら、それだけで一日が台無しになるほです。

加えて、明日の行動に必要なものをそろえておく必要があります。朝バタバタしないために、たとえば朝食やお弁当に使う食材をそろえておく、着ていく服を決めて準備しておく、忘れ物がないよう持ち物をそろえておく、スマホの充電じゆうでんをしておく、など。

それに片づけるとなると「大変だなあ。面倒めんどうくさいなあ。明日の朝、ちょっと早起きして片づければいいか」という気持ちが先に立ちますが、「明日の準備をしよう」と思うと重い腰こしも上がりやすいのでは？

「いい一日は朝で決まる」と思っているのですが、その気持ちのいい朝をつくるのは前日の片づけと準備なのです。

(柘野ますの 俊明しゆんみょう 『仕事も人生もうまくいく整える力』より)

二〇二六年度

和歌山信愛中学校

入学試験 C日程

作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題用紙、解答用紙、下書き用紙がそろって
いることを確認して、解答を始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
解答用紙と下書き用紙は、問題冊子の上に開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、あなたの感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

「あーあ。今日は何もおもしろいことがなかった。つまらない一日だった。世の中には今日もたくさん楽しいことやおもしろいことがあったはずなのに、そんな楽しいことと無縁えんの一日を過ごすとは、何とつまらないことだろう」なんて思うのは、感性がにぶっている証拠しんこです。

朝食の料理に腕うでをふるうのも楽しいものです。歩いている時に、手が届く範囲はんいの木の幹まきに触り、葉っぱをなでるのもいいものです。通勤、通学の途中で人間ウォッチングをすれば飽あきることはありません。仕事や勉強も、新しい工夫くふうをしようとするれば新鮮せんせんな気分になります。夕方や夜の散歩は、昼間とは違ちがった景色を見せてくれます。

夕方の街を歩けば、家々の夕飯のにおいが翌日のわが家のメニューを教えてください。月明かりや街灯でできる自分の影かげを見て歩くのも、子供心に返ったようで愉快ゆかいです。

新刊本だけでなく、昔読んでおもしろかった本を再読するのも一興いっしょうです。疲つかれた身体でお風呂ふろに入れば「極楽、極楽」と思わず声もれることでしょう。

このように、何気ない一日の中に私たちの心をなごませ、おどろかせ、愉快ゆかいにしてくれるものがたくさんあります。それらに触ふれるだけでも、その日は最高の一日になります。「※日々是好日ちちちこれこうじつ」という言葉は、覚えておいたほうがいい言葉です。

私は、自分と他人を比べることを勧めません。自分の幸、不幸は絶対評価ぜったいひやうで感じるもので、だれかと比べて自分が幸せだとか、不幸だと考えるのは、あてにならない相対評価さうたいひやうだと思うからです。

何もいいことがなかった、つまらないと思った日には、逆に、悪いことが起こった、仕事やプライベートで最悪さいあくの一日を送ることになってしまったことを想像さうぞうしてみてください。何もなかった日は、よい日です。つまらない日などありません。

私は「つまらない」が口から出そうになった時は、「つまらないと言いたくなるのは、自分の心のフィルターがつまんで、風通しが悪わるくなっているからではないか」と考えるようにしています。

あなたは、ひよっとして、「つまらない」が口ぐせになっていませんか。

(名取 芳彦ほうげん『気にしない練習』より)

※ 日々是好日……毎日毎日平和で楽しい日が続く、という禅ぜんの言葉。

2026（令和8）年度入試

国語出典

和歌山信愛中学校・高等学校

中学A日程（午前）

説明文 『牛乳から世界がかわる—酪農家になりたい君へ』

（小林国之 著 農山漁村文化協会 2024）

小説 『小学五年生』

（重松清 著 文藝春秋 2007）

中学A日程（午後）

作文 『仕事も人生もうまくいく整える力』

（柘野俊明 著 三笠書房 2022）

中学B日程

説明文 『ミジンコはすごい！』

（花里孝幸 著 岩波ジュニア新書 2006）

小説 『8分音符のプレリュード』

（松本祐子 著 小峰書店 2008）

中学C日程

作文『』

(著 2011)

高等学校

評 論 『鳥を読むー文化鳥類学のススメ』

(細川博昭 著 2023)

小 説 『リカバリー・カバヒコ』

(青山美智子著 2023)

古 文 『醒睡笑』